

公の施設目標管理型評価書【新潟市水族館】

別紙 2

施設名	新潟市水族館			
管理者名	(公財)新潟市海洋河川文化財団	指定期間	令和6年4月1日	～ 令和11年3月31日
担当課	文化スポーツ部文化政策課			
所在地	新潟市中央区西船見町5932番地445			
根拠法令	—			
設置条例	新潟市水族館条例			
施設概要	設 置:平成2年7月(平成25年7月リニューアル) 建物構造:鉄筋コンクリート造 地上2階・地下1階 施設規模:本館、別館、イルカショープール、イルカ屋内プール、ペンギン海岸 マリンサファリ 他 団体休憩室(大人150人)、にいがたフィールド 料金区分:大人1,500円、小学生・中学生600円、幼児200円			

施設設置目的
魚類、海獣、その他水生生物(以下「魚類等」という。)に関する知識を広め、魚類等への親しみを深めることにより、市民の教養と健全な余暇の活用に資する(新潟市水族館条例第1条)
管理・運営に関する基本理念、方針等
新潟市水族館は、「環境と生物と人との出会いの場」という理念のもと、以下に掲げる基本的な使命を通して「次代を担う青少年の教育機能」「市民が気軽に楽しめる文化施設」「観光都市新潟」の核となる施設」という役割を担っている。 ① 環境と生物との出会い 水族館の敷地は、日本海を臨み松林に囲まれた良好な環境にあることから、水族館はそこに立地するにふさわしい環境と生物との出会いの広場とする。 ② 新鮮な感動と豊かな情操を育む 生命を知ることにより得られる新鮮な感動を通じて、次代を担う青少年の情操教育に資する水族館とする。 ③ 種の保存と自然保護 飼育技術の一層の向上と国内外の水族館・動物園・水産研究所との情報交換・調査研究活動などにより、水族館の社会的使命である「種の保存」と「自然保護」の啓発に努める。 ④ 学習の場として 児童・生徒が、生物の生態を学習できると同時に、入館者の様々な知的欲求にも答えることができる博物館的機能を備えた水族館とする。 ⑤ レクリエーションの場として 文化的レクリエーション施設として、楽しく学習できるよう娯楽性を取り入れる。 ⑥ 「水の都 にいがた」のシンボルとして 日本海、信濃川など「水の都、にいがた」を特色づけている自然と風土を生かしながら、対岸諸国をはじめ世界の魚類や海獣類等を紹介し、北東アジアの拠点都市にふさわしい水族館とする。

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	基準利用者数の達成	入館者数 年間54万人以上	549,298人…評価指標より9,298人多い	A	評価指標を上回り、評価できる
		年間パスポート購入者数 年間14,000人以上	14,690人…評価指標より690人多い	A	評価指標を上回り、評価できる
	広報の充実	ホームページ(SNS含む) 更新件数 週平均7回以上	週平均 10回以上	A	評価指標を上回り、評価できる
		テレビ・新聞など 県外向け広報を実施	山形、福島などへのテレビCMのほか、全国雑誌やX、InstagramのWEB広告を実施	B	
	入館者満足度	館内アンケートの「生き物の展示に対する満足度」で「満足」「どちらかというと満足」が90%以上	満足及び非常に満足 …96.8%	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		館内アンケートの「イルカショーや給餌解説などに対する満足度」で「満足」「どちらかというと満足」が90%以上	満足及び非常に満足 …95.4%	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		館内アンケートの「券売窓口での接客に対する満足度」で「満足」「どちらかというと満足」が90%以上	満足及び非常に満足 …85.8%	C	満足度が下回った理由や背景を分析することや、アンケートの内容を精査するなど、正確な情報を取得する方法を検討するなどの改善を図ってほしい。
	苦情・要望に対する対応	回答を要するものは2週間以内に連絡を実施(回答が遅れる旨の連絡でも可)	ホームページ及び市長の手紙への苦情・要望に対し、回答を迅速(1週間以内)に対応	A	指標の半分の期間で迅速に対応しており、評価できる
	事業等の実施	体験・学習ゾーンでのプログラム参加者数 年間2,000人以上	磯のいきもの解説、アクアラボ体験参加者 6,669人	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		設置目的に合致した特別展示 年間250日以上実施	企画展示「にいがたの潟と水生生物」「SADO～世界に誇る自然と文化」など年間315日	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
	事業計画書に即した自主事業の実施	野外での体験学習プログラム 年間2回以上実施	「スナガニ観察会」「貝の標本づくり」「潟のいきもの観察会」の年間3回	A	評価指標を上回り、評価できる
		参加型のイベントや外部講師による講演会 年間7回以上実施	田んぼ体験、海岸清掃、マリニピアカレッジ、講演会、いきもの教室を年間19回	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		ガイドプログラム 年間10回以上実施	ナイトツアー、イルカバックヤードミニガイド、にいがたフィールドガイド、企画展示SADOダイドツアーを年間22回	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
	自然・環境保護活動の実施	自然保護団体等の活動への協力	地元保護団体の観察会への協力、行政などの協力	B	
		専門的な研究の報告 年間5件以上(継続を含む)	「カマイルカの出産前後の行動観察におけるiPadの活用」「新潟県の地すべり地を中心とした池の生物相及び魚類相について」など年間5件	B	
	社会教育活動の実施	ボランティア会員の活動延べ人数 年間350人以上	登録者数79人、延べ活動人数453人	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		学習支援の受け入れ 年間30団体以上	57団体1,809人	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		出張展示で生体展示やパネル展示を実施 (ライブ配信含む)	にいがた環境フェスティバル2025出展、県立がんセンター新潟病棟小児病棟へのライブ配信など	B	
		実習生の受け入れ 年間15人以上	24人	A	評価指標を大きく上回り、評価できる

財 務	市の歳入の増加	使用料収入 460,637千円以上	480,976,572円…評価指標より20,339,572円多い	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
	業務仕様書等に定める事項の遵守	業務仕様書等に定める事項の遵守	業務仕様書等に定める事項を遵守	B	
業 務	日常連絡の適切さ	月次報告書 翌月10日までに提出	翌月10日までに提出	B	
	事業計画・事業報告の適切さ	事業報告書 翌年度4月30日までに提出	翌年度4月30日までに提出	B	
	改善を必要とする際の対応の迅速さ・適切さ	改善勧告等を受けた場合は速やかにそれに対応	改善勧告なし	B	
	安全責任者の配置と安全確保体制の確立	連絡体制の確立	緊急連絡網、危機管理フロー	B	
	事件・事故発生時対応の適切さ	防災訓練年1回実施	防災訓練(火災2回、地震1回)年3回実施。また、非常放送を用いた館内放送を実施	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
	当該施設の管理に係る関係法令の遵守	コンプライアンス及びハラスメント対策の実施	職員によるコンプライアンス及びハラスメント研修の実施	B	
		守秘義務違反に該当する問題がないこと	問題なし	B	
人 材	専門性の高い人材の配置	館の各業務に必要な専門的知識や技能、経験、資格等を備えた職員を配置	業務基準及び業務で必要な有資格者を配置	B	
	職員の育成	館内研修を年5回以上実施	化学薬品取扱研修、アナウンス研修、SNS研修、救命救急講習を延べ10回	A	評価指標を大きく上回り、評価できる
		館外の研究会や研修会等に参加	(公社)日本動物園水族館協会主催の各種研修会などに多数参加	A	積極的に多くの研修に参加し、職員の能力向上に努めたことを評価する。
	労働基準の充足	労働基準違反に該当する問題がないこと	問題なし	B	

【評価基準】 A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている B: 要求水準(評価指標)が達成されている C: 要求水準(評価指標)が達成されていない ※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)
--

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)
令和7年度の入館者数は、549,298人となり、前年度と比較(99.0%)して減少した。また、入館料収入についても480,976,572円(99.5%)となり、前年度を下回る結果となった。これらの要因の一つとして、物価高騰や異常気象等の影響が考えられる。一方で、年間パスポート購入者およびリピーターは合わせて約90,000人にのぼり、引き続き高い支持を得ている。今後は、来館者数および収入の回復に向け、効果的な広報・宣伝活動の強化と魅力ある展示・サービスの充実に努めていく。 また、専門的な知識・技能を持った職員を配置し、ハンズオン展示や教育効果の高いプログラムを数多く実施した。多くの方に学びの場を提供するとともに、効率的で円滑な運営に努めた。また、継続して毎月実施しているお客様アンケート調査でも展示生物や解説プログラムに対して高評価を受けており、接客については、満足度を高めるためにさらに積極的な声かけを行ってきたい。 経費については、物価高騰や人件費の上昇が続く中、指定管理者として出来る限り節約に努め適切に執行した。建物・設備では、依然として様々な箇所 で不具合が発生している。今後も修繕工事を伴う経費が嵩むことが予想されることから、新潟市との協議を重ねながら日常的・定期的に点検を行い、不具合を未然に防ぎ、早期に発見することで被害・損害を少なくするよう努めたい。 当財団は、水族館の指定管理者として令和6年度から5年間の指定を受けており、これまでに積み上げている知識、技術、経験、また全国的なネットワークを十分に生かし、引き続き新潟市水族館の指定管理者として来館者の安心・安全を第一に考え、一層の来館者の満足度向上に努める。そして、新潟市水族館の設置目的と「新潟で一番愛される施設」という私たちのビジョンを達成し、併せて法人としても健全な運営を行っていく。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)
現地調査日: 令和8年7月13日 令和7年度の入館者数及び入館料収入は、前年度と比較して減少しているものの、いずれも評価指標を達成しており、評価できる。館内アンケートの結果や企画展示の実施状況からも、利用者目線に立った運営を積み重ねてきた成果が表れているものと考ええる。一方、「券売窓口での接客に対する満足度」については評価指標を達成できていないことから、要因を分析するとともに、目標達成に向けた改善に取り組まれない。 物価高騰に加え、人件費や燃料費等の上昇、さらには建物・設備の老朽化が進む厳しい状況の中、安定的な施設運営と健全な法人運営を維持していることは高く評価できる。 本施設は、社会教育施設としての役割に加え、観光施設としての側面も担う本市にとって重要な施設である。今後も魅力ある展示や事業を展開するとともに、積極的な広報活動を通じて県内外からの入館者の増加を図り、さらなる施設の魅力向上と発展に努められたい。